■まつむら塾・再開！■
ほぼ週刊【松村拓也のメールマガジン】第 440 号
こんにちは、松村拓也です。
E-Mail と Facebook で松村拓也の活動についてほぼ毎週お届けしています。
名刺交換した方や、突然思い出した方にもお届けしますので、ご迷惑であればお知らせください。
できれば勤務先でなく、個人のアドレスにお届けしたいので、ご連絡ください。
ご意見、ご質問大歓迎です。

・・・・・・・・・・・・・・・・・

440　目次
1.まつむら塾より：塾長の思い
2. ブログより：死と滅びの違い
3. 今週の動向＋今後の予定
4. 地主の学校・販売中
5. アクセスポイント：問い合わせ先
6. このメルマガについて

・・・・・・・・・・・・・・・・・

1.まつむら塾より：塾長の思い

今週から「まつむら塾」を本格的に再開したいと思います。
https://nanoni.co.jp/juku/
昨年 11 月より活動拠点の笑恵館で暮らすようになったので、それをフル活用するためにも、他の用事以外の全ての時間を「まつむら塾」に充てたいと思います。
今日は HP から「塾長の思い(コンセプト)」を引用しましたので、どうかご一読ください。
皆さんからのお問い合わせを心待ちにしています。

■起業と破綻
僕の原点は、42 歳の時の倒産経験です。
メインバンクの破たんは、借金漬けだった建設会社には致命傷で、結局最終的な会社の破産申し立てまで 2 か月とかかりませんでした。
当時書店に有ったのは「会社を潰さないための本」ばかりで、「会社の潰し方」は誰も教えてくれません。
そこで僕は覚悟を決め、徹底的に情報開示しながら、顧客救済を最優先に破たん処理を進めました。
その結果、手形を含めた下請けに対する支払いと銀行債務の大部分を踏み倒し、全社員を解雇することになりましたが、17 件の未完成工事現場を完成させながら、文化と歴史を継承する新会社を立ち上げることができ、その会社は現在も無借金経営を継続しています。
僕はこの経験から、起業と破綻はまさに表裏一体であり、繰り返し乗り越えるべき人生のプロセスだと気づきました。
そして、破たん処理や事業創出に関する、僕に寄せられた多くの相談に応える中で、それは確信に変わっていきました。

■起業と市民
やがて、僕は建設業界を離れ、IID 世田谷ものづくり学校の校長として「プロジェクトの法人化（独立）」に携わり、それをきっかけに、世田谷区から様々な相談を受けるようになりました。
役所の財政がひっ迫する中、市民は行政サービスへの依存度を減らし、自ら助け合う社会福祉の担い手へと変化しなければなりません。
そこで僕は、市民のあらゆるチャレンジを「起業」とみなし支援する事業を提案したところ、結局自ら担当することになりました。
こうして 2006 年秋、僕の相談窓口「せたがやかやっく」が世田谷区産業振興公社内に設置され、様々な人々がやってきました。
相談の内容は、いずれも事業計画や資金調達などからは程遠い、具体性のないものばかりでしたが、熱く語られる「夢や願望」を聞いているうちに、その実現を手伝いたいと真剣に思うようになりました。
そして、一見掴みどころのないビジョンでも、その人のこだわりを手掛かりに構築していくことで、思わぬ新規性や革新性を見出せるようになりました。

■破たんの先送り
相談者の数も増え、盛大な交流イベントを開催した翌週の 2011 年 3 月 11 日、東北で未曽有の大震災が発生し、東京も一気に被災モードになりました。
そして翌日には福島第 1 原発で水素爆発が発生し、日本の滅亡すら現実味を帯びてきました。
震災・津波の被害に加えて原発処理まで抱える財力など日本にはありません。
僕は「日本の破たん」を確信し、即座に物件を探し始め、4 月には「起業する家・アントレハウス駒沢」を開業しました。
およそすべての経営者が経営破たんを想定し、それを乗り越える起業に挑まざるを得ないはず。
そして、職を失う多くの人たちもまた、起業せざるを得なくなると僕は確信しました。
しかし誰もそれを望まない限り、破たんは先送りされてしまうもの。
アベノミクスに浮かれた人たちが、今年もまた新たな赤字国債を容認し、無責任なばらまき行政を繰り返しています。

■破たん後の日本をつくる
そんな現状に見切りをつけ、僕は「破たん後の国づくり」を始めました。
それは、既存の枠組みによる支援や助成を受けないあるいは受ける以前の、市民の新たなチャレンジをサポートする活動です。
こうした名もなきチャレンジの中にこそ、世界を変える革命のタネが潜んでいるからです。
恐らくそのことを知っている人は少なく無いと思います。
でも、そのタネを蒔いて育てる作業がほとんど進んでいないのは、そもそもそのタネの持ち主が、「漠然と思い願う」だけで、実現後の世界を描かずにいるからです。
どんなに素晴らしい夢であろうと、それを「具体的にイメージ」しない限り、他人はもちろん本人ですらその価値に気付けません。
僕はこれまで、多くの人が自分の夢を具体的に語ることで「人々の賛同を得る瞬間」を見てきました。
そしてまた、たとえ賛同を集めても具体化した自分の夢に落胆し、自らやり直しに取り掛かる人が大勢いることも知っています。
まだ見ぬ未来を創るとは、そういう「報われない手探り」だと思います。

■あなたの夢は僕の夢
僕は「夢が叶ったら死んでもいい」という言葉が大好きです。
死よりも尊いことなんて、他にはあまり思い当たりません。
そして、夢は自分だけのものでなく、みんなの夢になることも素晴らしいことです。
そんな夢ならば、あなたの夢は僕の夢でもあるからです。
この二つの条件を満たすなら、一つでも多くの夢を叶えることが、新しい世界をカタチ作ると僕は考えます。
そのために破たんが避けられないのなら、僕は破たんでも挫折でも何でも受け入れます。
やはり、「夢を叶えること」･･･それが僕のやりたいことです。
でも、ここで言う夢とは、あくまで実現を目指す夢のことであり、漠然と夢見る夢は妄想にすぎません。
まずは、あなたの漠然とした夢を説明可能でシンプルな具体イメージに自分の覚悟とみんなの賛同を確認する必要があります。
そのために僕は、まつむら塾を始めました。
あなたの願いや困りごとを、本気で取り組むみんなの夢に育ててみませんか？

https://nanoni.co.jp/juku/concept/

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2. ブログより：死と滅びの違い

僕が持続にこだわるのは、滅びたくないから。
それはすでに、持続可能な世界を目指す現代社会の潮流そのものであり、否定する人はいないと思う。
ところが一方で、着実に進行しつつある滅びの実態を、大多数の人々は直視しようとせず、その原因はなかなか論じられない。
その理由もまた明らかで、恐らくは滅びが死を連想させ、縁起でもないと思うからだ。
だが、それこそが問題の核心だ。
持続とは、滅びないようにすることのはずなのに、滅びゆく現実から目を背けて良いはずがない。
もしも、ここまでの話がピンとこないなら、それこそが滅びに気付いていないこと。
少なくとも、世界が滅びつつあることを想定していない。
・
まず、死と滅びの区別について考えたい。
どちらも「終わり」を意味するが、死は個別の終わりなのに対し、滅びは集団の終わりを意味する。
ひとりの死とみんなの死、どちらも悲しいことだし、どちらが悪いことかを考えても仕方ない。
だが、死と滅びには決定的な違いがあることを忘れてはならない。
それは、我々人類はこれまで全員死んできたが、まだ滅んでいないこと。
だから、これからも誰もが必ず死ぬが、いずれ滅びるとは限らない。
死は防ぐことはできないが、滅びは防ぐことができるかもしれない。
・
僕たちは、誰もが滅びの当事者でもあるのだが、果たして滅びに対して抗っているのだろうか。
例えば、少子高齢化という問題は、子どもが減少することで構成員全体の高齢化が進むことを指している。
このまま進行すれば、やがて子供が生まれず、あるいは負担に耐えかねて流出し、全ての構成員が死に絶える、

これが滅びのストーリーだ。
少子高齢化、地球温暖化など、多くが「このままでは、滅びてしまうかもしれない」という問題のはず。
だが、人々からそういう危機感は感じられない。
いつまでも「滅びない」ことでなく、とりあえず「死なない」ことを目指す、目を背ける人々、抗わない人々、滅びゆく人々に思える。
・
一方で、次々に露見する破たんに目を奪われて、滅びに辿り着くのは容易でないのが現実だ。
例えば、高齢化が進んで税収が減少すれば、行政が立ち行かなくなり合併を余儀なくされる。
合併とは、複数の事業体が一つになることで、個別の事業体の死をもって、全体の存続を図ること。
我が国において、町村の死を促進する合併は、あくまで日本政府の滅びを防ぐ手段であり、地域の滅びは止まらない。
平成 22 年 4 月、総務省は「平成の合併について」の中で、次のように明言した。
明治の大合併：小学校や戸籍の事務処理を行うため、300～500 戸を標準と して、全国一律に町村の合併を実施。
昭和の大合併：中学校 1 校を効率的に設置管理していくため、人口規模 8,000 人を標準として町村の合併を推進。
平成の大合併：地方分権の推進等のなかで、与党の『市町村合併後の自治体数を 1,000 を目標とする』という方針を踏まえ、自主的な市町村合併を推進。
つまり、明治維新、昭和の敗戦と繰り返された自治体の合併は、地域の発展や存続から自治体自身の存続にすり替わっている。
明治 22 年当時 7 万以上あった自立集落のほとんどを殺して、1,000 にすることで生き残ろうとするのが日本政府なのだ。
・
「死」には「個別の死」と「集団の死」の 2 種類があり、ここでは後者を「滅び」と呼ぶことにしたい。
なぜなら、生命は「集団で生きること」を選んだと、僕は確信する。
すべての生命は、「死なない」ために「生きる」のでなく、「滅びない」ために「死ぬ」のかもしれない。
もちろん「生きる」とは「死なない」ことではあるが、生命は「死なない」に固執するより「産む（生まれる）」を選んだようだ。
こうして「滅び」を回避できるようになった生命は、「生きる」だけでなく「死」をも「滅びない」ために使えるようになった。
僕が存続を願うのは、すべての生命が「滅びない＝存続」を目指していると思うから。
そして、僕と似たような生命による「存続を願う集団」に所属したいし、「存続を願わない集団」には属したくない。
・
存続を願うとは、どういうことだろう。
かつて恐竜を絶滅させた巨大隕石や、氷河時代など、生命の存続を脅かす危機は様々あったのに、それらを乗り越えて生きているのが我々現代の生命だ。
つまり、滅びをもたらしうる危機を想定し、それを回避あるいは克服する姿をイメージすることだと僕は思う。
例えば戦争を考える時、それがもたらす滅びとは、何が失われることなのか。
その集団の存続は何をもたらし、それを守るためにどうすれば良いのか。
その集団を存続させるためなら、ある個人の死、もしくはある集団の滅びが必要なのか。
かつてあるたばこメーカーが、「弊社は、死をいとわない愛煙家たちにたばこを提供することで、世界の人口問題解消に寄与しています」と発信するのを見て、苦笑いした自分を思い出す。

どんなに危険でもウクライナに留まる人々、ジャニーズの名前を捨てられない人々。
人は集団になることで「滅び」を免れるだけでなく、むしろ「滅び」を選び、求められることもある。
・
さらに上から俯瞰すれば、こうした多様性もまた「滅び」を免れる手段なのだろう。
善と悪のどちらが滅びるべきか分からなければ、とりあえず両方残した方が存続する。
正しいものが残るのでなく、残ったものが正しい。
そうなると、存在するモノつまり現実は全てが正しいことになり、世界に問題など無いことになりはしないか。
そこで登場するのが、「滅び」につながる未来イメージだ。
今現在問題なく存続していても、滅びる未来が予見できることが「問題」として浮上する。
先ほど述べた「滅びのストーリー」こそが、未だ見ぬ未来の入り口だ。
だから僕は破たんが好きだ。
どうしようもなさそうな未来を、どうにかすること･･･に、僕は挑みたい。

https://nanoni.co.jp/20230913-2/

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

3. 今週の動向＋今後の予定（下記以外はすべて空いてます）
【凡例】◎：要連絡、○：要申込、×：一般参加不可

■今週の動向
（火）09/19 なのに（世田谷）作業日
（水）09/20 なのに（世田谷）作業日
（木）00/21 なのに（世田谷）作業日
　　交流◎：13-18 時　なるほどデイ_3 木（笑恵館）
　　交流◎：18-20 時　持ち寄り食事会_3 木（笑恵館）
　　会議○：20-22 時　AR・Q ミーティング_3 木（OL）
（金）09/22 なのに（世田谷）作業日
（土）09/23 なのに（各所）作業日
　　会議○：13-15 府　100smiles MTG（菊名）
（日）09/24 なのに（各所）作業日
（月）09/25 なのに（世田谷）作業日

■今後の予定
09/26　会議○：20-21 時　LR 定例会議_4 火（OL）
09/28　交流◎：10-12 時　笑恵館 de シネマ_4 木朝（笑恵館）
09/28　会議◎：17-19 時　笑恵館運営会議_4 木（笑恵館）
09/29　会議×：10-12 時　HFA 定例会議_3 木（恵比寿）
09/29　交流◎：19-21 時　笑恵館 de シネマ_4 木夜（笑恵館）
09/30　交流◎：13-17 時　よろず相談会_土（笑恵館）
10/07　交流○：10-14 時　名栗の森 OSC 例会_4 日（飯能）
10/08　会議×：10-12 時　100smiles 定例会_2 日（いづみ）

10/09　会議×：18-20 時　なのに MTG_2 月（成城）
10/10　会議○：20-21 時　LR 定例会議_2 火（OL）
10/12　会議◎：17-19 時　笑恵館運営会議_2 木（笑恵館）
10/16　交流○：未定　みんなの家交流イベント（大阪）
10/17　会議×：13-15 時　理知の杜理事会評議員会（OL）
10/19　交流◎：13-18 時　なるほどデイ_3 木（笑恵館）
10/19　交流◎：18-20 時　持ち寄り食事会_3 木（笑恵館）
10/19　会議○：20-22 時　AR・Q ミーティング_3 木（OL）
10/21　会議○：10-12 時　八島花文化財団理事 MTG_3 土（OL）
10/22　交流○：10-14 時　名栗の森 OSC 例会_4 日（飯能）
10/28　交流○：18-20 時　住人食事会_4 土（笑恵館）
10/29　交流○：19-21 時　観劇・雌伏（板橋）

松村の予定はこちらで随時公開しています。
http://nanoni.co.jp/schedule

・・・・・・・・・・・・・・・・・
４．地主の学校・販売中

拙著【地主の学校】はこちら
https://www.bungeisha.co.jp/bookinfo/detail/978-4-286-23339-0.jsp
セミナー、読書会など気軽にご相談ください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・
5．アクセスポイント

松村拓也
メール　takuya@nanoni.co.jp
携帯 090-9830-3669

自宅：
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-27-19 笑恵館
http://shokeikan.com/

主な所属団体：
株式会社なのに（取締役・平社員）
http://nanoni.co.jp/
一般社団法人日本土地資源協会（代表理事）
http://land-resource.org/
特手非営利活動法人 HOME-FOR-ALL（事務局長）
http://www.home-for-all.org/
一般社団法人地域社会圏研究所（事務局長）

https://www.localrepubliclabo.com/

・・・・・・・・・・・・・・・・

6. このメルマガについて

松村拓也とご縁のあった方に、日々の活動やブログ記事などの情報をほぼ毎週お届けします。

参加希望、ご意見、ご質問など、何でもこのメールに返信してください。

バックナンバーはこちら

http://nanoni.co.jp/magazine/

メール配信をご希望の方はこちら

http://eepurl.com/dHjgFX

まぐまぐ版はこちら

https://www.mag2.com/m/0001693746